

第 138 号

2018 年 3 月

ラルーラ通信

<発行>

中部学院大学

子ども家庭支援センター

〒504-0837 岐阜県

各務原市那加町30-1

Tel.058-375-3605

fax058-375-3609

「見立て遊び」を楽しむことが将来を生き抜く力を育んでいる



中部学院大学教育学部保育・発達支援コース長
子ども家庭支援センター「ラ・ルーラ」副センター長
教授 西 垣 吉 之

飲み物が実際に入っていないコップを手で持ち、傾けて飲む振りをする、ぬいぐるみの口にスプーンを押して食べ物を食べさせる真似をする、ぬいぐるみをあたかも生きているように扱う、また、廃材をくっつけてロボット等を構成する、ビニールに入った水の中の花びらをもみ水に溶け出した色を見てジュースと名付ける等、幼児の世界は「見立て活動」にあふれています。皆さんはこうした子どもの姿を日頃どのように捉えているのでしょうか？

こうした力をただ単に、子ども時代特有の幼い行為、あるいは、年齢が小さくて本物を扱うことができないからこれで満足している等と捉えている人は多いのではないのでしょうか？ 結果、この姿を、単にかわいいというレベルで捉えたり、幼いから仕方がない等と消極的に認めつつも、早く虚構の世界から卒業して、現実を見つめてほしいと願っている人もいることでしょう。

しかし、目の前に存在するものを、本来の機能だけからしか利用できない人と、多様な側面から物を捉え、本来の機能以外の利用方法があることに気づき、それを実際に試そうとする人とは、どちらが豊かな人生を送ることができるでしょう。

「見立てる力」とは、実物がその場に存在しないのにも関わらず、頭の中でそれを思い描く力です。それはイメージする力・想像する力と置き換えることができます。見立て遊びを通して子どもは想像力を培っているのです。想像するとは目の前に実物が存在しなくてもそれを思い描くことができる力です。例えばどこかに出かけるとき、電車に乗ってそこからバスに乗り換えて・・・ということはまさに想像する力そのもののなのです。

また、見立て遊びの中で、そのものが持っている機能に即した使い方とは異なる使い方をする行為がありますが、それは、ある物を何かの代用物として利用する姿です。例えば、まっすぐの線を描こうとする時、定規を利用する人は多いでしょうが、定規でなくてもまっすぐの線を描くことができた方が人は生きやすくなると思われませんか？ また、本来持っている機能とは異なる機能としてものを利用することは、視点を変えることです。視点を変えるとは、何かに固執せず、捉え方や思考を広げることにつながります。また、人との関わりにおいても、あの人はこういう人だと固定観念を持たず関わることでその人との関係が改善されていくということもあるでしょう。

つまり、見立てが豊かにできる人は、生きやすくなるのです。

子ども達は、将来、大きな障がいや課題に会い、気持ち落ち込んだりめいるようなことがあったとしても、その気持ちをポジティブな方向に切り替えたり、そのようになってしまった自分のありのままを受け止めたりして、乗り切っていく力をつけてほしいと思います。見立てる遊びの中で経験し蓄えられた力が、いずれ物事に柔軟に対応する姿勢の基盤になっていくと思うと、幼児期に見立て活動への見方が変わるのではないのでしょうか。

子どもの遊びにはすべて意味があり、そこで将来を生き抜く力を得ていくのです。だからこそ、子どもを取り巻く大人が子どもの遊びの意味を丁寧に掘り起こし、その価値や尊さに気づくことが、その将来を生き抜く力の基礎を培うことを意識して関わる必要があるのだと思います。

2017 年度を振り返って

今年度も、たくさんの子どもの笑顔・学生の笑顔・地域の方々の笑顔に触れることができ、大勢の方との嬉しい出会いもたくさんありました。そんな一年間の思い出の一部をご紹介します。

春

あそび広場Ⅰ（毎月1回）

いろいろな体験を通して親子遊びを楽しみました。



赤ちゃんサロン（毎月最終木曜日）

赤ちゃん(0歳児)とお母さんと一緒に過ごすおしゃべりサロン。ママ友作りのきっかけにもなりました。



お母さんのためのリフレッシュ講座（毎月1回）

趣味の講座。少し手の込んだ作品を個々に応じて時間をかけて仕上げました。充実感や達成感の他にも、お母さん方の繋がりもでき広がっていきました。



子どもの遊びを見守りながら製作中



誕生会（毎月最終金曜日）

当月生まれのお子さんをみんなで祝い。吹奏学部の生演奏で一人一人に happy Birthday の歌を歌い、手作り誕生カードとお花のプレゼントもありました。



夏

夏祭り

地域の方々と共に学生企画の夏祭りを開催しました。



「お兄さんお姉さん集まれ！」
ラ・ルーラを卒業した小学生も集まって夏祭りに参加しました



親子クッキング

「素材そのものの味を楽しむ」「(調理しながら)美味しい匂いを感じる」ことをねらいとし、親子で調理して食しました。おにぎり遠足にも出かけました。



小さなお子さんは調理中はママの背中に参加



「玉ねぎの収穫」



ラ・ルーラ畑にて

冬から翌年の春にかけて植えてみんなで世話をし、旬の野菜の収穫をしました。



「サツマイモ掘り」

水遊び・砂遊び

戸外テッキで砂遊び、水遊びを思い切り楽しみました。



秋



ランチタイムコンサート (毎月4~8回)

吹奏楽部有志 (子ども教育学部学生) による生演奏。毎回趣向を凝らし、音楽を楽しむ催しを計画し、楽器とのふれあいも楽しみました。



楽器とのふれあい!



毎回、楽器もメンバーも多様に



四季を通して戸外での遊びを



あそび広場Ⅱ (毎月1回)

親子遊びを楽しみながら友達とも関われるような体験遊び。戸外遊びを中心に身体を動かして元気に遊びました。



お話の時間 (毎日 11 時頃) 移動図書館 (毎月1回)

毎日のお話の時間に加え、毎月各務原キャンパス図書館より、本の紹介や読み聞かせに来てもらっています。



寒い季節には身支度整えて

冬



遊びの変化

常設の遊具に加え時には新聞紙プールやカプラ・デュプロなどを遊びにプラスして楽しみました。小さなドミノを並べたり、今まであまり興味のなかったキューポロも人気で、集中して遊ぶ姿も多く見られました。



制作コーナー (土・火曜日)

作って遊ぼう! (毎月1回)

割り箸鉄砲・段ボールカーリング親子で一緒に遊べるおもちゃを作って遊びました。



学生とのかわり

主に教育学部・幼児教育学科の学生が実習などでかわりを持ちました。



クリスマス会 節分 (まめまき)

学生を中心とした季節の行事や催しも数多く開催しました。



「ぎふ木育ひろば」認定

岐阜県産樹木を利用した家具やおもちゃを設置し、樹木に興味関心が持てるような環境を整えました。





<ラ・ルーラ開設日>火・水・木・金・土曜日 (時間 10:00~16:00)



催しがあるときも ラ・ルーラ内では自由に遊べます。

4 月の予定						
日	月	火	水	木	金	土
1 休み	2 休み	3	4	5	6	7
8 休み	9 休み	10	11	12	13	14
15 休み	16 休み	17	来年度の催しは検討中です。			21
22 休み	23 休み	24	25	26	27	28
29 休み	30 休み					

来年度の各サロンや行事の内容は、更により良い内容にと考え、検討中です。

3月下旬頃、ラ・ルーラ室内に掲示しラ・ルーラHPにてもお知らせします。

開室は通りで特別な休みはありません。お気軽にお問い合わせください。

電話：058-375-3605 FAX：058-375-3609

今年も多くのおみなさんとの出会いがありました。

たくさんの触れ合いや 会話の中から笑顔が生まれ
喜びや新しい発見へと繋がり
実り多き楽しい一年となりました。

そんなみなさんの笑顔に支えられ
ラ・ルーラも一緒に歩むことができました。

これからも出会いを大切にしながら繋がりを深め
皆さんと一緒に歩めるラ・ルーラでありたいと思っています。

一緒に元気に過ごせることに幸せを感じ
皆様に感謝すると共に
来年度もどうぞよろしくお願いします。

